

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



福岡県芦屋町
が応援するふるさと名物

芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物

芦屋霰地真形釜 室町時代 芦屋釜の里蔵



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

福岡県芦屋町

地域の
プロフィール



芦屋町遠景
(遠賀川が響灘に注ぐ河口兩岸が芦屋町)

福岡県の北端に位置する芦屋町は、東を北九州市に隣接し、響灘を望む遠賀川の河口に広がる町です。町の中央部を流れる遠賀川を挟んで両極端な海岸線は、東側は奇岩景勝の磯を形成し、西側は白砂青松のなだらかな海岸となっています。いずれも多くの観光客を集め、北九州都市圏の海洋レジャータウンとなっています。町の総面積は11.60平方km、人口は約14000人です。

芦屋一帯は、古くは『日本書紀』に登場するなど、海と川の結末点として栄えました。中世には、茶の湯釜の名器「芦屋釜」の産地としてその名が知られました。江戸時代には伊万里焼を仕入れて全国に売り歩く旅行商人(たびゆきしょうにん)が活躍しました。多くの商家や民家、寺社仏閣が立ち並び、その繁栄ぶりは「芦屋千軒 関千軒」と称えられました。

美しい自然と古くからの歴史・文化を有する芦屋町。その中で、地域資源「芦屋釜」を活かし、地域の活性化に取り組んでいます。

1

主な地域資源

◆ 芦屋釜

遠賀川の河口には、南北朝時代から江戸時代初期頃まで、優れた鋳物製品を製作する集団が活躍しました。彼らを「芦屋鋳物師（あしやいもじ）」とよびます。芦屋鋳物師が製作したのは、茶の湯釜、梵鐘、鰐口、銅像などですが、特に茶の湯釜は「芦屋釜」とよばれ、京の貴人達に珍重されました。その特徴は、「真形（しんなり）」とよばれる端正な形、胴部に表される美しい文様、そして使い勝手を考えた軽さにあります。現在でもその評価は高く、国指定重要文化財の茶の湯釜9点のうち8点を芦屋釜が占めています。

平成7年、芦屋釜の復興を目的として開設した芦屋釜の里では、芦屋鋳物の調査・研究を進めるとともに、鋳物師の養成を進めています（養成期間は16年間）。近年では、その養成期間を終えた鋳物師が独立し、再び芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物を地域の産業として根付かせるべく、町全体で復興事業を推進しています。福岡県では、「鋳工業品又は鋳工業品の生産に係る技術」、「文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源」の2分野で、「芦屋釜」が地域資源に指定されています。



釜の鋳込み



浜松図真形釜 現代 八木孝弘



釜鋳型のへら押し

2 ふるさと名物

◆ 芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物

芦屋町で製作された鋳物製品を芦屋鋳物とよびます。芦屋鋳物では、芦屋釜を中心に、蓋置、香炉、建水等の茶道具を主に製作しています。また、梵鐘、鰐口等の仏具製作や、銅鏡等の文化財復元・修復も行っています。

芦屋町では、今後も芦屋鋳物の周知、ブランド力向上を支援するとともに、一般に求めやすい商品の開発など、地域の新たな産業として定着するよう振興を図ります。



梵鐘の鋳込み



芦屋釜の里製作の梵鐘

3

その他

◆ 芦屋鋳物を活かした地域振興

現代の鋳物師が製作した作品は、芦屋町への「ふるさと納税」の御礼品や、町の交流事業での記念品など、地域の各種事業に活用され人気を博しています。

また、芦屋釜が茶道関係の機関誌等に掲載され、全国に周知されることにより、文化施設である芦屋釜の里への遠方からの来園者が増えています。それにより、地域の食事処や宿泊施設の利用が増加するなど、地域振興に寄与しています。



ふるさと納税の御礼品

(左上: 鋳製盃、右上: 干支、左下: 香立、右下: 燭台)

1

独自の支援策

◆ 芦屋町独自の支援策（芦屋鋳物復興事業）

芦屋鋳物復興事業は、芦屋町が芦屋釜の里を核として推進している事業です。芦屋釜の里では、芦屋鋳物の調査・研究、鋳物師の養成、芦屋鋳物の周知活動、鋳物師の独立支援等を実施しています。芦屋町の施策の方向性を示す『第5次芦屋町総合振興計画後期基本計画』（平成28年度～平成32年度）においても、芦屋釜の復興と芦屋鋳物の産業化を図ることとしています。

2

事務局

◆ 芦屋鋳物振興の中心施設「芦屋釜の里」

芦屋鋳物の振興については、芦屋町の文化施設「芦屋釜の里」（所管：芦屋町教育委員会生涯学習課文化係）が主たる事務局となり、芦屋町役場地域づくり課と連携しながら事業を推進します。芦屋釜の里は、約3000坪の日本庭園内に、鋳物工房、資料室、大小の茶室、抹茶処である立礼席等を有する施設であり、鋳物師の養成、独立支援、芦屋鋳物の周知活動等を行います。



大茶室



大茶室の内部



資料室

3

広報・ タイアップ

◆全国的な周知活動

芦屋町では、現代に復興した芦屋釜をはじめとする芦屋鋳物について、全国に周知するべく広報活動を行っています。特に、茶道各流派機関誌への掲載等を通して、茶道具の主たる需要者である茶道界への周知を図っています。近年では、茶道界の主流派である表千家や裏千家にも現代の芦屋釜を納めることができ、茶道界での認知度も高まっています。

今後についても、芦屋鋳物の更なる周知を図り、福岡県を代表する工芸品となることを目指しています。芦屋町にしかないオンリーワンの地域資源「芦屋釜」を活かし、地域の活性化に取り組みます。



七宝文真形釜 現代 八木孝弘



霞地真形釜 現代 樋口陽介